

## 長野県納税貯蓄組合連合会長賞

### 《人の思いを叶える力》

学校法人長聖佐久長聖中学校 三年 柴田 恭徳

数年前まで、静岡に住んでいた。夏、母の実家がある長野の佐久に帰省することになった。帰省するのに東京まで東名高速、その後、上信越道を使い、佐久まで帰省した。よく考えるとこの道のりは大回りをしているのだ。調べてみると今、長野―静岡を直線的に結ぶ、「中部横断自動車道」は建設中だそう。

「高速は、道がまっすぐで、信号も無いから運転するなら一般道より良いよね。」

と、母は言っていた。

高速のメリットは、このことにとどまらない。一般道に比べ、輸送コストの削減・所要時間の短縮・交通事故の減少につながる。

輸送コスト削減は、ドライバーの労働時間の短縮によるものが大きいだろう。今、「二〇二四年物流問題」が叫ばれている。ドライバーの労働時間の短縮や効率的な荷物の運搬が最重要課題とされている中、高速の重要性は増している。また、所要時間の短縮は、ドライバーの労働時間の短縮につながり、このことは輸送コスト削減にもつながる。

先ほどのとおり、交通事故が減少することは重要なことだ。通っていた小学校の通学路は、高速を使わない大型車両による通り抜けが多くある道だった。自分の何倍もある大きなトラックが通過していくのは非常に危険だっ

た。一歩間違えば多くの子供の命が奪われかねない道だった。中部横断自動車道が全線開通し、利便性が高まればこのような問題も解決されるだろう。

高速には、物流業界の問題を解決する以外にも、利点がある。中部横断自動車道が八千穂高原ICまで開通したことにより、佐久地域周辺には工業団地が幾つか形成され、雇用を生み出した。地方の自治体の多くが若年人口の流失に直面している中、雇用を生み出すことは、若年人口の流失の歯止めに一役買う。地方を元気にすることにもつながるのだ。

だが、高速道路建設には、公費が使われている。中部横断自動車道の一部（佐久小諸JCT―八千穂高原IC間）は新直轄方式を用いて建設されている。新直轄方式とは、収益化が見込めない区間を国交省が管轄するというものだ。ICが多くあり、地域に根差した高速ということだ。この方式は全額が公費で賄われている。高速を「**?**」建設するのにかかる金額は、五十億円だ。「高速は税金の無駄使いだ。」と言う人もいる。

その他にも、高速にはメリットがある。それは佐久の地域を活性化させるというものだ。高速が全線開通したら、川上村のレタス農家は、朝採れレタスを多くの家庭に届けたいという思いが通じる。

高速の開通には、多くの納税者があってこそだ。自分一人ではできないことを公共サービスや事業として行うための根幹をなすものが、「税金」だ。日本人の根幹にある助け合いという精神が税金を納めるということにつながっているのだろう。日本国民みんなで助け合う制度の一つが、公共事業であり、その仕組みを支えているのが「税金」なのだ。